

野作記

農商務省  
圖書  
第七十五  
第八  
號  
冊

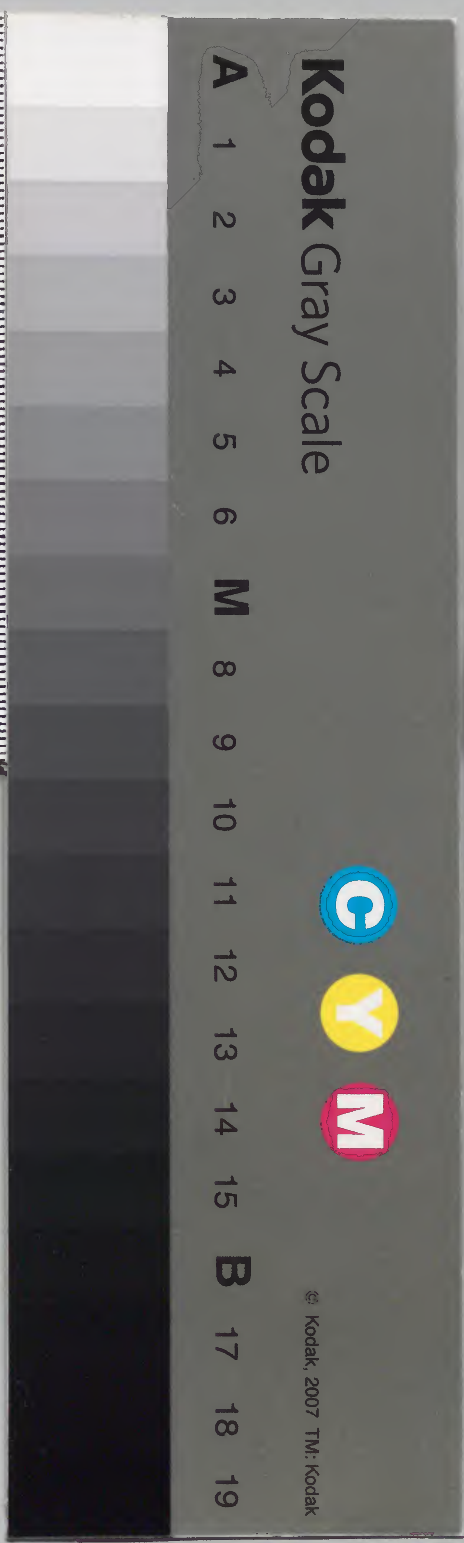
大政官文庫  
和書  
二冊  
架  
函  
號  
類

241  
內閣文庫  
和書  
二冊  
架  
函  
號  
類

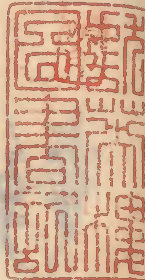
番號	和	11241
冊數		2 ( 1 )
函號	178	241

工執云

本私田

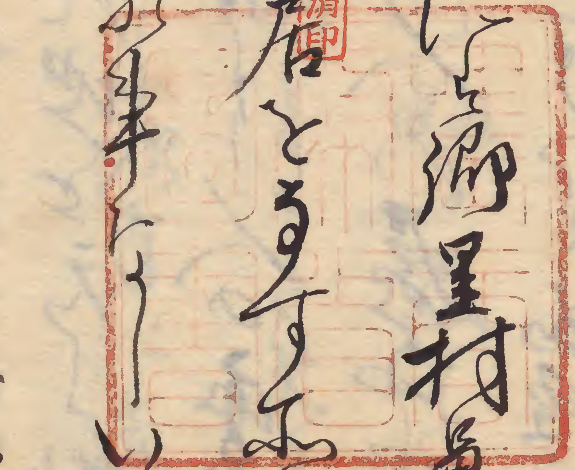
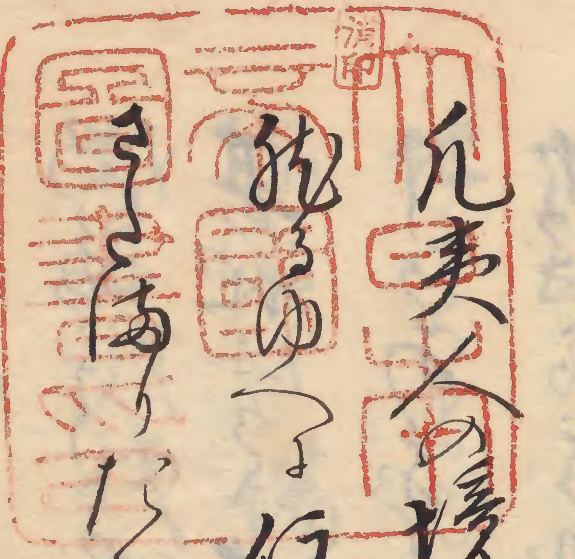






明治十二年購求

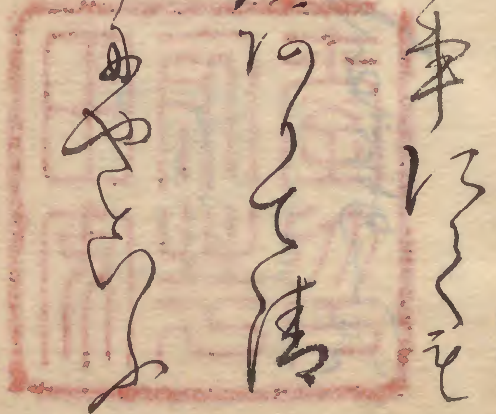
居家経営の總説



凡夷人の境に河原村色の界といふ事あり  
 然るゆゑに任居とする事ありては毎人自己地  
 手はありたる事ありしむこれ地力なり  
 内々任居とありて又即ち轉し福なり  
 只のくらしの地の地力なり任居とありて  
 考へて造る事ありては是れ法あり



多一先河部地諸人... 菅野と申す... 地ノ菅野... 乃ある... 其地... 一... 浄...



事... 地... 山... 初... 象...







居家の製てくくから忠かきりくくく東地  
くくく南方シリキナイ乃色くく極ふクナ  
シリクくくあまてのる凡之種くくくく  
くくく大小廣狭のあひあきくく先くく  
各之種れくく城くくぬきくく海也之種乃くく  
ち日後の居家令儀のあきく地形をくく  
せくくく福せり

但居家のかくくくく種れあまてくく  
ともそ製作乃始末をあきくくく  
くくぬきくくあまてのりけ書あまて  
あまてシリキナイの色くくくくく  
まての製作の始末也くくくく  
クナシリ色あまての製作をまて  
すくくくあまてあまてくくく  
にまてくくくくくくく  
あまてあまてくくく福せり







はらふ事のしん限ある事なりつきのおと  
と長短をばらばらと同くも指し残  
用はらふ事なり

トンドベレバ乃島

トンドベレバといふ事トンドを相伸らひへ  
レバを割事残らひく相残割といふ事也  
是を伸らひあせられ長短を度アといふ  
よしく切を移し細きをこまき用ひをばら

ラハ割く板をす事也すぬく夷人の  
境器具といふ  
ハカアハ残す事と圓はく芥といふ  
切りこしものと割る事残す也板のこす  
は板を製する事といふ事又同く芥といふ  
切りあはしゆも困難に力伸らす  
事いふはこれなり

トンドの島二種







中邦の茅屋の用は柳と多く、茅葺の  
さすの家

さすといふはさす  
中邦の言葉ありて茅葺  
乃屋と造る所ありてなほより本邦合はる  
之のさすは是れ夷人の語に何のり也  
尋るるはあはれいふは造るに尋るる  
中邦は用をさすはすく多くある  
あはれいふはあはれいふは造るに尋るる  
あはれいふはあはれいふは造るに尋るる

と造るはあはれいふは造るに尋るる  
語にキタイラニことしキタイ上よりひらき入  
教のさすはあはれいふは造るに尋るる  
あり梁と茅はあはれいふは造るに尋るる  
造るはあはれいふは造るに尋るる  
解はあはれいふは造るに尋るる  
本邦の茅屋はあはれいふは造るに尋るる  
あはれいふはあはれいふは造るに尋るる



てゆゑにこの草はあつちの草に似たりけり  
用也ふすはは種のもの大小の草ありあるは  
はくつねとほつねの種とあつちの草はあつちの  
利り場坤あつちの草に及す

ハルケの圖

ハルケと繩とをいふは汝の解いませし詳をいふは  
くんし屋一凡夷人の繩といふもの種あり  
まゝと草はあつちの草とあつちの草に似たりけり

を繩といふは用也あつちの草は  
とこいふもの也

け草の名夷種は何といふもあつちの草と忘れ  
たあつちの草はあつちの草の用は是れ  
あつちの草と稱するものも皆あつちの草と編む

化れ草也夷地のうち果濕あつちの草はあつちの草  
二にはあつちの草の用はあつちの草の皮とあつち  
きくつちの海用はあつちの草と夷種に似たりけり



寺の如く寺殿に用いたる野葡萄の皮を以て  
野葡萄乃皮を以てトカフと云ふトカフを葡萄  
と云ひカフを皮と云ふトカフは三持の如く若くは  
即ち由羅と云ふ者ト云ふ杖も此種の合せ屋の  
くきて成すものにて用ひ野葡萄の皮  
を屋と葺きに用ひ也すれども此の二種を用て  
屋と葺き申されども腐りすやうにて  
使ふべからざる野葡萄の皮の如きもの堅固な  
しと稱すやうなものは朽腐する葺きを以て  
に多く用ひ是の如き用ひ也三種の如きもの  
と葺き申すは野葡萄の皮を葺き申すに  
も種あり一に野葡萄を用ひ二に蘆を用ひ三に  
と世の葺きを用ひに用ひはれは用ひあら  
葺き用ひは種のもの多くは葺きと葺きの二  
種成用ひ也此種の如き各同くは葺きを  
後の居る人全後の圖に申すべし







根切する後の是れ

トニドアニ此系

屋のくまはくまのひくま  
上に通くそ形乃ち小廣様を志す  
根切あり魚まねおれは残トニドア  
とりかトニドを根切のひか  
いひく根切まありし半也  
はまの圓の根の

の方は斜。おしてまありの  
ひとあれ時流のまあり  
半切はくま根切まあり  
より屋とありのまあり

リキタブニの是

リキタブニと稱すありま  
まありんくま  
くまあり







とくもたふたふ本はるる茅のふり  
をぬきただも家もささるる  
本のはやさしな茅もささるる  
多くと右のまねやちのまね也

こつたいも蘆箒と夫人の制す  
まねあり網さるるも同く夫人の制す  
おやこつたのまねも本はるる  
きよ滝さくはるるたのまね

まねく夫人の境障りさるる事あはまの屋のた  
うきさの家の田さるるまの屋も  
まねの茅もささるるまの屋も  
た二柱のまねもあつたまの屋も  
のまねもささるるまの屋も  
はまのまねもささるるまの屋も  
まねもささるるまの屋も  
まねもささるるまの屋も



妻くは後乃今彼の是と云へるるなり其の  
首と云く次者ハ家乃らるるなり其の  
妻初ハ四方の圃いなり其はり屋と云く  
事なり

凡屋と云くハほりやちそまに  
多してこの是ハ一にけりてあはるる  
にありけり列上是の部のうら身を  
の具とわらうて深き合をなせ

名のおく屋と云くはけりて其家の右方ハ  
少れハげり成りけりてそとナセセムと云ふ  
去家成りしセムハナげりなり

ナげりなりナげりなり  
中邦の信徳ハ  
中屋のつまらハ少れ家と造りしなり  
ナげりなり

この家の是の志はるにハのあきてあるなり其の  
ナセセムと云ふハナげりなり



後の今頃の図とていふの清正なるは  
乃こきたてていふ所家経営の事ハ  
二種より後の様々といふハ今頃の  
代より世々あり

キキタイナセ丸

一圓ハシリキシ十イの色よりシラライの  
おあまの形の所家今頃の丁梅よりて  
葎ハとて葎たる也とら成キキタイナセ  
柿ナキと葎成ソハキキタイと成とソハナセ  
ハ家成ソハ葎の屋敷家とら成  
あしと成セーやく成とあしたとまの  
トのあまといふ所の所家ハまの葎と葎との  
二種にうまうて用也ナセコツとら成  
キラる地の形ハ成ソハ成りナセハ家とい  
コフ成物の礎跡といふ成り成り人成り  
成り成り成り成り成り成り成り成り成り



たむを三行ぶきねも山人き三行のいまの  
んわハルすうんきあや後にあしる行  
かぬこのゆいとさる

ニヤリキキタイナセ乃宗

い園とラライの色くもコロウの色くよま  
すくの指あをぬのすあしりて屋と蘆  
やして葺きさるやしそびニヤリキキタイナ  
セと社すニヤリキと蘆とらひキタイと屋と

いナセと家といいて蘆の屋の家とふ  
やぬうけきの指あててら多く屋代ぬえ  
蘆のらげ用由ト宗の家とま終と  
まともものてやまのまのあはら  
らう程のあてはまのうのあはらぬの  
いさきとぬれ

ヤアラキタイナセ乃圖

あしちじろうの色くうリナシリもたあまらあ











たに諸世家が種々ありていふも神代のもを  
ゆゑとも移居せしむるにきまつた地を宮子と云  
神代ありては産乃上たイナナとたはる日作代  
多しを流しう 中邦にいはるまゝるをいふ  
るゆゑにたも然もとも流しものも未詳  
と流るるをいふ子細は流しものも流し  
乃く流しもの

大邦自体より流しものも未詳

カセイノこの部より流しもの

プの圖

プの東の地は入流しもの

中邦にいはるものありては  
流しものありては  
プの東の地は入流しもの  
中邦にいはるものありては  
流しものありては  
プの東の地は入流しもの







乃ヨリらぬ嵐のメーテ物ば事すよしを成路ん  
ためしかくちサナる也嵐とあせくのみすいつまた  
あしくんえつり

エリモシヨアルキイタの圖

エリモシヨアルキイタとツキエリモハツ嵐とツいしヨアルキ  
ちよふすといんやーイタを扱はるにく嵐の事なる  
扱といふ也是をあよふたやく嵐の床と云所て嵐  
扱せくといふは扱をほひ上んとはるて床扱の

よふ治めくぬら扱と金の月るすけちうしほふたちよふて  
夷人の境嵐メーテ物とてこちた下へんと用いてぬえ  
く事やアツラふといつて物と製して嵐と捕るものも有

アツラふ嵐ハ窓賊扱ふんえつり

然といふ指と扇あある流布せさる心ばりすれ  
けく物ばさこちう事メーてとあお



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

舟をよす。きよとよ子の山に

入んとて山神はまゝの因

凡夫人の舟にあるとして、其舟に千のちりあ

り舟は、いへとも終は、まの初ふ、中に入

あ、ちりあ、大木を、おしる、也

夷人の舟にあ、いへ、ちりあ、しり

あ、いへ、ちりあ、しり

其山中、入んとて、舟にあ、いへ、ちりあ、しり























し後あるるあり後の川段あり舟とあり  
あしあし備したる合せんふん

二種のの図二種

英徳ふしやうフフニヨフイキを稱すラフとき呼と  
しつヨフとさしやふふふふイシキ板とつひ板と  
つひ板といふのほいふふふふの板とつひ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
事徳のふらふの風俗ふふと他らふふふふふふ

二種のうら茶の図ハニリキニイといふふのきふ  
にロウといふふのきふに用る図ヤう後の図ハヒロウ  
といふふのきふリリリリといふふの用る事也

エトロフラウとよの地にく用る舟のしぬ事人の  
説話ふつ(まことはい)ともまふしくその他に  
まふし見事ふきふるたあふふふふふふふふ  
後本乃いたんふふふのりふんてんをふ  
後ハエトロフラウとよのふにふふふはふふ







羽板の事

右の字にプパイと稱し、  
ラフとぬといふは板の  
しるしなり

図上書き

こら板の図

右の字にハムイメと稱し、  
ハムイメと稱し、  
板のしるしなり

ふれりの図

右の字にハムイメと稱し、  
ハムイメと稱し、  
板のしるしなり

目黒の図

右の字にハムイメと稱し、  
ハムイメと稱し、  
板のしるしなり







い具と用ひ、舟のあきと多くを舟いふ

### テジカの図三種

こ終舟と造つた板と接いあへするの純なりテシカ  
と称するをテシカと云ふと云ふはテシカと云ふは  
延びしとあへしと云ふはテシカと云ふはテシカ  
あへしと云ふはテシカと云ふはテシカと云ふは  
と云ふは皮と云ふは純なりと云ふは一板の皮と  
と云ふはのまき用ひ一板の線ひげと云ふはの  
まき用ひと云ふは図と云ふはと云ふは一板の  
中線のひげと云ふは多くビロウと云ふはテシカと  
舟に用ひしリキシナイと云ふはビロウと云ふはの皮の線と  
と云ふは終ちと云ふは舟と云ふはのテシカと云ふは板  
と云ふはの皮の用ひと云ふは

### 舟の図

此系は右ふもせしと云ふはと云ふはありありと舟  
の製法と云ふはありありと云ふはと云ふはの図と云ふ  
たり

い句と云ふは



舟製能介使の圖二種

舟の製能介令く製ひて後國のやへ帶と船にま  
しりキシナイようコロウキマシて舟の製能介の後の事  
コロウキようシナシリマシに舟の製能介の圖  
とらんくうんま

舟の製能介令く製ひて後國のやへ帶と船にま  
しりキシナイようコロウキマシて舟の製能介の後の事  
コロウキようシナシリマシに舟の製能介の圖  
とらんくうんま

舟の製能介令く製ひて後國のやへ帶と船にま  
しりキシナイようコロウキマシて舟の製能介の後の事  
コロウキようシナシリマシに舟の製能介の圖  
とらんくうんま

フカシケタウエニアニベイヤマヒリカノイカシ

とらんくうんま

ウエシカ

とらんくうんま

とらんくうんま

とらんくうんま

とらんくうんま

とらんくうんま











船に世間を中らるるの

くさるるのくさるるの

形らるるのくさるるの

のくさるるのくさるるの

東のくさるるのくさるるの

のくさるるのくさるるの

のくさるるのくさるるの

のくさるるのくさるるの

アジナプの圖

是を 本邦の船の

とくさるるのくさるるの

船のくさるるのくさるるの

のくさるるのくさるるの

のくさるるのくさるるの

のくさるるのくさるるの



に帆をよぶの簡形本國を

帆もあつてなりうひと稱す

一とさうらに用ひるに稱す

けりあつてはひの代りともあま

のたふらる

帆の圖

帆の圖

夫治ふことカヤと稱す星の如くにキナと名ひて他を

キナと名ひてにキナと名ひては星の如きもの也

帆とカヤと稱する

そをいふに洋をいひしと考ふる

あつての圖

夫物よも帆をワツカケフと稱すワツカケ水といひ

をいふにワツカケと稱す











お帆でも也 或る者 夷人の舟を乗らば 一とくは  
あるにや 中邦の船作ふとあるや 一とくは  
まづ舟もか 一とくは 一とくは 舟の  
あつた人の舟の船もあつた 舟中あつた舟の船  
をあり或る風波にあつた 舟中あつた舟の船  
あり 舟中あつた舟の船もあつた 舟中あつた舟の船  
あつた舟の船もあつた 舟中あつた舟の船  
あつた舟の船もあつた 舟中あつた舟の船  
あつた舟の船もあつた 舟中あつた舟の船

舟中の具備して海を渡る因

舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因  
舟中の具備して海を渡る因







舟はあつとふる也併しゴロウをとりシナリをの  
者人をこき代こく付て了旨板小鷹とけりふい  
わいあおのカシヂと一人にして一りつまひうくるも有  
けり終に小海にむるやと波濤の急激あるもま  
し舟のうらちちのあつて一人にてあおのカシヂと  
きんこのたまはるやんてあつていふやんていふやん  
にいふやんていふやん

イタシヤキナフの図

早ハあにおをさる舟あつての也弟諸にイタシヤキ  
ナフと稱する也イタシヤキ板といふやんていふやん  
いナフは舟のうらちち板を舟といふ也といふの  
おひるやんていふのちあつていふやんていふやん  
め板といふやんていふのちあつていふやんていふやん  
はるりいふやんていふのちあつていふやんていふやん  
りふやんていふのちあつていふやんていふやん  
はち行るやんていふのちあつていふやんていふやん























イナヲと製する圖

イナヲと 女邦より帶帛此類するを以て

班夷の信を傳ふ糸紙朴りしを以て其地の事

らう初ら神道と云ふのありき事其國亦一の神り

たり花を以て河を以ておんまらるるもまら神りと

そのひまらるるを以てはるかとてそ成カモイイミと神り

カモイイミカモイイミと云但子同 於日中にて宮居神在の御

カモイハ神といひミミと初る事と云ハ神

居ハ助字少て鴨居を居る居る等なり

と初る事と云ハ神也日記に神初る事



カミイノミミ川一と申すなりあや

事くハカモイノミ此部よらんなり

イルイノミイノランイノリ 皆自他と分けられずハイノミと

其カモイノミと云ふに必しイナラと云ふなり

神の成るにイナラと云ふなり

是と云ふとイナラと云ふなり

イナラと云ふにイナラと云ふなり

圖のイナラと云ふなり

伊弉諾と云ふなり

イナラと云ふなり

妻ハカモイノミの部ハ云々

イナラと云ふなり

イナラと云ふなり

イナラと云ふなり

イナラと云ふなり

イナラと云ふなり

イナラと云ふなり



とくく家のかいらし又しヤサシよちしをる也

又しヤサシのふかモイ合の部よんんたり

其割平くところの形らハ種とあるのはよき

くいこもくくたういあり後の高とんぞ知たり

あつて先とイナラと種又又しヤサ種けけ二川の

河未しころあしんもイナラとイナボの種

語りたる 本邦東の農家より一月すもた

留白りもあとも福徳の形らあなり善徳たにく

信ふふふのう後

云穀の豊脱とけり是とイナボと種ハ妙す

いふも太古より巻風とこしこんてきしけり

の種一傳りイナボとイナラとあやまり

種もるあや ぼく又しヤサとる事ハせりし

たくとしは又井の種傳りてち麻のるすちる

い福徳と大麻の之月也 本邦ありし今の世

乃いて身形らし移り事も同くありぬ



只いたるをこしんきて 天地の神のたまはる  
おほほるとしらの物かへてそ用ひの意を  
いりりかゝの幣帛也今の幣帛はさ  
紙と用ひ麻と用きても上古の時紙麻とよの物  
帛帛とさきりて本のこととて習せし事の  
あはる人も多し今も何とあはる人も福徳を  
ち成りたるとくまゆして習せしるにこそ  
本邦古来の物の習ひたるを自ら

イナヲヌシヤとよの祓はぬ千糸なりとてしるの  
事にもしめしむはくくイナヲヌシヤとて幣帛は事と  
いふあくあまりに 本邦の事たよくいきて  
帛帛の事に習せしる今もそのまのま  
りたるをたれとて事たりたるはるるおの地よ  
いへ帛帛の風俗たるはるるおの地よ  
くもいよまの帛帛にたはるるものつはるる  
羽の地よはるる事もあはるる



あはに世書はなむらうたれ世書今ぬまはた

ふんよの自かくいふものごとくより志つりといふ

事ハ志する(ま)事にいふ

上古の青幣 白幣の形ハ流るるなりとも 聖徳太子の匠工の棟あげハ青幣白幣と合して

麻と云ふはカキコトといひませしこ流るるのりといふことなり 平邦の流るる

タリもよこへりといふハ上古の幣なり 是は流るるのりといふことなり

は流るるのりといふことなり

流るるのりといふことなり

其流るるのりといふことなり

上流るるのりといふことなり

流るるのりといふことなり

アベシヤニウシイナラハ圖

いイナラハ火の種とあるけよなけ用るたり

アベシヤニウシイナラと流るるのりハアベシヤ火の

事といひしやておのりごとといひウしを流る

るといひ火のりごとを流るるイナラといふは

い流るるのりといふことなり 平邦の流るる



君アベと火の事とソウよあつた

い津ハ汝解の終よあつく備たりと

そけいこいこいあつた

シヤニちツバの物居にてウしたアシの物居

サケケアアシとソウつるゆちとま川事と

ソトともあや人の脚と何ヤソウも

ま川つるま川あつたあや机葉の物居をた

ま川つるところとあしとソウを外事何雨

あふとソウする事とま川あつたのま川あつた

そつるやかくんねけをアベニヤニウシを

火の終はりま川とソウ事み通するゆり

此イナラを夷地のうらシリキニナイとソ

不の色よりヒロウとソウする不の色をま川

用る也

ビン子アベニヤニウシイナラ物居



て千子アベシヤテウレイナラハ圖

世の内にいへる火の種とあるもの由ゆを  
男女のヨウラあるよりして其形は  
オウシ也ビン子アベシヤニウレイナラと  
ビンも男子と云ふ子を助成りしヤニウレイナ  
ヲを前よりして同くは男子火の種  
に立ふイナラと云ふ也ニ千子アベシヤテウ  
レイナラと云ふハニ子を姉女と云ふ子を助

成りしアベシヤニウシと云ふ也又前と同くは姉女  
火の種と云ふ立るイナラと云ふ也イナラ  
に男女のウラカキハ火の種と云ふ也  
ウラカキハイナラに男女の  
ヨウラある也是を考へて此等  
の事考へて其義の詳あるは  
一也男子乾男坤女の義考へたる陰陽の  
と男女の事考へたる事



誰行へたるやしめ種を用ふ不れイナラ  
男女のよめよとていしてす刺さる形ら  
自ら仰伏のきくひありて陰陽の象と表  
たふも誠上と他の自然小あくるめを  
あくるまきまきくハ景とんや知る  
若徳よ男ふとピンとソくる事れを義い  
祥きく婦女ばて千とソくるハ満きく  
日本紀よ余婦とまきくて千と訓一うけて千子

アベシヤミウシイナラと一ふちメコアベシヤミウシ  
イナラと一アメノコとソふも女の子にて是  
とらりしとて女子ヤラ一はエラのイナ  
ラとピロウとソくる所のきくソナシリ島  
にやるとも用也

但一はイナラマハピロウの色よりソナシリ島の  
色より多く用也  
ソナシリ島の色よりピロウより地より用也



本邦のふるまひ也道に礼節の上確し録すべし

キケナノイイナヲ此系二種

おまゝに家中の安穩と祈るよ用ひキケと此

と割る事といひナハ助儀がうノイといふを

物と捨る事といひて割を捨るイナヲと云

事也け等の儀もあはれ本邦の禮節何れをも

よめしむるまはれ本邦の禮節何れをも

とカリといふカリをキケと通すべしノイを

ねてぬいてぬらといふの禮節何れをも

けしハキケノイイナヲをかき録すべしナ

といふ事と云ふ事也二種のうち初の圖を

シリキナイといつる本の色よりビロウとシ

る本の色もまたに用ひ後の系とビロウの色より

シナシリ島の色もまたに用ひる也云々

かくくみ入る事ハ系と云ふ事

キケハアロセイナヲ此系二種















イコシラツケイナラの國

イコシもちりりしひラツケも **お**を御けを

をいひく守りとうけをくイナラといふ事し

ちりりしりあを夷人乃刃もも獲するあり

富音といふ事其の富意もちり

由邦の俗も兒のちりり感もいふ事

刃のちりりおありいりておのちりり

いふ事いふ事おのちりり

時ありてイナラに富音といふ事

サンヨウといふ事いふ事いふ事

事いふ事いふ事いふ事夷人の甚

を事いふ事いふ事いふ事

あをいふ事いふ事いふ事

イカツファイナラの國

イカツといふ事いふ事いふ事

殺す時といふ事いふ事いふ事



のこまきまうてきのイナラとらふんを形名也

あまも夷人の俗態瓶の形を印法をさるる

是れ瓶の形ある所を靈とあつて甚厚く

さ味もまこけの原の形を印法をさるる

月あつてきまうてきの洋ふらふ

事いもまうてきの紅尋の形を印法をさるる

イナラの形

いともまの少枝の形を印法をさるる 中邦

糸の形を印法をさるるイナラとらふんは漁獲をせん

ともまの形を印法をさるる水宿を印法をさるる

イナラと糸の層羅の形を印法をさるる

コタニコルまうてきの又ヤサシの形を印法をさるる

コタニコル又ヤサシの事とカモイノミカ

部まうてきを糸

イアミイナラの因

イアミと物を挿むるをいひく挿むイナラ



いふ事なり是と云のこゝは蓋と申す事なり  
るめはさむる由いふめを稱す事なりとのイナラ

シリキシナイの色よりゴロウの色まで其夫人恒居

乃チセコルイナラと云ふ事なり 江連と云ふ事なり

事なり

乃チセコルイナラ乃チ事なりカモイノコト也



事なり

右の録せし事なり

其用由ありと云ふ事なり詳あり

きりある今志はしる事なり

いふ事なり此詳ありと云ふ事なり



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the right page of the manuscript. The text is arranged in several vertical columns, starting from the right edge and moving towards the center. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.



